

大切なのは「对患者コミュニケーション」 ― 歯科はもつと家庭内や地域に出て啓発を

今回ご紹介させていただく岩堀禎廣氏は、博士（薬学）・薬剤師であり、調剤薬局勤務経験も豊富。医科大学や歯科大学での講師経験も持ち、現在は日本薬科大学の客員教授も務めるほか、自ら起こした食に関する事業にも携わる。薬学部卒業後は、海外の薬局での服薬指導経験を通じて对患者コミュニケーションの大切さを実感。帰国後はその重要性を指摘しつつも、その後の経験を加え、医療者側から患者サイドに向き合う時には、リテラシー面への配慮が不可欠であると語る。さらに、薬剤服用に至る前に薬剤師として何ができるかにも注目し、その視点から食の大切さに着目。日常における食生活上の留意点をはじめ、機能的表示食品関連事業も手がけるに至るなど、その行動力には目を見張るものがある。そのアクティブで多彩な活動を繰り広げる岩堀氏の目に、日本の歯科医療はどう映っているのか伺った。

― 薬剤師を目指した経緯をお聞かせください。

父が薬学部の出身で、仕事の関係から私には医師になってほしかったようです。小学生の時にその気配を察し、そこから父の希望にそぐわない方向に歩み出しました。高校は神奈川県内有数の進学校で、級友は東大や早慶進学が当たり前で、私の薬学部志望は「薬学部に進むなんて意味が分からない」と思われていました。

― 大学入学後や薬剤師になってからはいかがでしたか。



いわほり・よしひろ 日本薬科大学客員教授／1972年神奈川県生まれ。96年3月明治薬科大学卒業、01年3月同大学大学院薬学研究科博士課程修了。00年3月薬剤師免許取得。02年1月～03年5月慶應義塾大学医学部先端医科学研究所神経免疫グループ勤務、06年4月有限会社マースアンドマークス臨床開発部（現職）、06年6月特定非営利活動法人OFFICE SHI-YOU代表理事（現職）、06年11月合同会社オクトエル代表社員（現職）、17年4月日本薬科大学非常勤講師～18年4月日本薬科大学客員教授（現職）、21年11月合同会社エビデンスマーケティング代表社員（現職）など。そのほか、国際薬学生連盟、国際薬剤師連合、病院や調剤薬局の薬剤師など、様々な医療機関、教育機関の運営などに携る。医療書のほかビジネス書や教育書など著書多数。

INTERVIEW 日本薬科大学客員教授 岩堀 禎廣

聞き手・早坂美都 東京歯科保険医協会 理事（広報・ホームページ部長）

る状況でした。ここから、処方箋を受け付けてから仕事が始まるという薬剤師の受け身のマインドがどんどん育っていくのだと感じました。

卒業後、大学院に進みましたが、博士課程1年の時に「薬学部の全国団体を作る」という活動に巻き込まれ、3年目に代表になりました。海外にも行きましたが、その時に受けた服薬指導の際、患者さんへの第一声で「今日はどうしましたか」と声をかけをしたところ、指導者から「その対応ではだめだ。なぜ、患者さんに自己紹介しないのか。足を引きずっている患者さんに、『どうしましたか』と話すとはどういうことだ」と指摘されました。残念ながら、まだその当時の日本の薬学教育には、对患者コミュニケーションに当たる服薬指導実習は含まれていませんでしたので、ショックを受けました。

帰国後に勤務した薬局では、その経験を教訓に、業務の中で患者さんの体調などに寄り沿うよう意識して対応したところ、私の担当を希望する患者さんが増えました。また、診察中、医師には話せないことを薬剤師の私に話してくれることもあり、これは对患者関係では大切なことと感じ、「良い仕事ができた」「患者さんとの距離が近いことが薬剤師の良いところ」というやりがいを実感しました。しかし薬局全体では、私は薬局内の各窓口へのスムーズな患者さんの流れを止めてしまう存在になっていた。そこで気付いたのは、「私が目指す薬剤師は、薬局の利益にはつながらない」ことでした。

―「コミュニケーション上、世代の違いやリテラシーにも着目されているようですが、その留意点について。

歯科診療所で先生方が行う口腔健康管理やブラッシング指導などの説明の際、若い世代の親御さんたちへの歯科知識啓発が、リテラシー面でのかなりの理解され伝わっているの

に配慮してください。歯科医師、

―食と健康に関心が高いと伺っていますが、その視点からひと言を。

私は生薬学（漢方）で博士号を取ったので、常に頭には「医（薬）食同源」、食と薬のことがありました。そして、機能的表示食品や特定保健用食品の開発に関わるようになる

また、私に師事していた学生がインターンで農家を訪ねた際、農家で食べる作物には農薬を使わないのに、出荷分には使われており、それを見て食の安心・安全を考えざるを得なかったのです。実際に無農薬の作物を食べ、味が違うことに衝撃を受けて、今まで食べていた野菜のえぐみや苦みは、すべて残留農薬のためだったのかと、振り返りました。私は、健康の維持管理を追究する中で、この食の問題に行き着いたので

それから、最近の食の話題で「トリプトファン」と「米」についてですが、トリプトファンは、心の安定を保つ脳内ホルモンで、別名「幸せホルモン」とも呼ばれるセロトニンの原料となる物質です。豆腐などの

大豆食品に豊富に含まれ、1日の3食を豆腐にして1週間ほど経過するとイライラ感がなくなり、よく眠れるようになります。このことから、食のことは大事です。

次に、炭水化物の「米」に関してですが、白米は一定以上摂取すると体に良くありません。その意味では米の適量は1日あたりひと口です。約50キロカロリーに相当し、歩数で言うと約2千歩です。お茶碗一杯は200〜250キロカロリーなので、既に摂取量をオーバーしている方がいらっしゃると思います。実は「おいしい」と思って食べている食べ物の多くは、適量以上に食べ過ぎています。美味しさを追求するのはあくまでも体に必要なものを食べることを前提とし、それを美味しく食べる方向にシフトしていく必要があると思います。米は私も大好きですが、嗜好品としての酒、タバコのポジションと同じで、体には悪いと思うつつ、必要最低限のコントロールをしながら摂取するという形が理想的です。

このような身近で様々な食に関する情報は、本当は歯科が発信すべきであり、歯科はもつと家庭内や地域に出て、地域の人たちを啓発すべきだと思っています。

―食に関する注意点と機能的表示食品について教えてください。

現在、消費者庁が管轄している「機能的表示食品」は、企業の責任で届出をして、受理されると「機能的食品」と表示、発売できる制度です。医薬品には副作用があるため使い方が重要で、医師の指導や薬剤師の説明などが必要となりますが、食品はベースが安全でなければなりません。この機能的表示食品以外に、保健機能食品、特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品の四種類があります。問題なのは、それ以外の健康食品はただの食品で、安全性が確認されていないことです。機能的表示食品は一般的ではない食品もある

りますが、きちんと安全性が調べられています。制度上、それが必須なのです。食品だからこそ、ベースには「安全」が必須になるのです。

―薬剤師も過剰になっているとの報道を目にしますが、その点はいかがでしょうか。

調剤薬局は特殊で、保険点数が付いてはいますが、経営形態は株式会社です。薬剤師過剰時代到来という指摘がありますが、これは絶対に起こり得ません。株式会社のため、必ず増収増益しなければならぬからです。いま、既存の店舗の利益率は限界です。だから、株主に対して増収増益するためには新店舗を出さなければならず、必ず一定数以上の薬剤師需要があるのです。だから、薬剤師の就職は必ず100%以上のまま継続するはず。そのため、薬剤師過剰時代到来はあり得ないと言っ

―本日はありがとうございました。

■ 書籍プレゼント 会員3名様限定

今回、インタビューでご紹介させていただきました岩堀 禎廣さんのサイン入りの著書「血圧がひと月でみるみる下がる食べ方&レシピ実例」（シェファささみ（著）、岩堀禎廣（監修））を会員3名様にプレゼントさせていただきます（お1人につき1冊まで）。ご希望の会員は、官製はがきに「2月号書籍プレゼント」と明記し、必ず以下の4点を記入のうえ、協会プレゼント係までご応募ください（複数応募不可）。応募締め切りは2月20日（月）です（消印有効）。当選発表は、書籍発送をもってかえさせていただきます。

【応募はがき記載事項】

- ①氏名 ②会員番号 ③電話番号 ④住所
応募送付先 〒169-0075 新宿区高田馬場1-29-8
いちご高田馬場ビル6階 東京歯科保険医協会
2023年2月号 書籍プレゼント係まで



©日東書院本社